名古屋市の教育改革の取組を紹介

NAGOYA School Innovation

ナゴヤ・スクール・イノベーション

名古屋からはじまる
子ども一人ひとりのための
新しい学びづくり

名古屋市教育委員会

これから求められる教育とは

人生100年時代やSociety5.0（ソサエティー5.0）という新たな時代を迎えようとする現代社会では、グローバル化や少子高齢化、ICT 化が急速に進展し、私たちの暮らしや価値観などがごく短期間に大きく様変わりしています。また、昨今、SDGsという言葉が注目されていますが、未来社会に向けて世界が国際協調により取り組むべき社会課題も数多く存在しています。

このような現代と未来を生きる子どもたちには、激しい社会の変化を前向きに受け止め、先の見通せない状況の中でも、新たな挑戦をしたり自分を高めたりしながら、たくましくしなやかに変化や逆境を乗り越え、よりよく自らの人生を切り拓いていくことが期待されます。

そのためには、子どもたちが学校という一つの社会を共に生きる中で、自分のよさや可能性に気づくとともに、自分で課題を見つけて学習を進めたり、多様な立場の人々と協働しながら新たな価値を生み出したりできる資質・能力を育めるように、学校教育をイノベーションしていくことが求められています。

NAGOYA School Innovationとは

「NAGOYA School Innovation（ナゴヤ・スクール・イノベーション）」では、社会が劇的に変化する中で、自らの可能性を最大限に伸ばし、人生をたくましく生きていく「なごやっ子」を育成するために、学校がすべての子どもにとってよりよい成長の機会となるよう、子ども一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進しています。

名古屋市教育委員会では、
NAGOYA School Innovation（ナゴヤ・スクール・イノベーション）を
「授業改善の推進」、「環境整備」、「広報・啓発」の
三つの観点から一体的に推進しています。

教育長からのメッセージ

名古屋市教育委員会 教育長
鈴木　誠二
Seiji Suzuki

子どもたちを取り巻く社会の状況は、大変めまぐるしく、刻一刻と変化していきます。また、現在も続く新型コロナウイルス感染症に対する子どもたちが抱える心身の不安も危惧されます。こうした中、何より学校・園が、子どもたちにとって「安心・安全で幸せな居場所」としての役割を果たすことが大切です。そのために、今の時代に即した教育改革を進めることが必要です。

名古屋市においては、子どもたち一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進する教育改革「ナゴヤ・スクール・イノベーション」を、幼稚園から高等学校までのすべての校種において実施しています。

この教育改革の取組を基盤として、すべてのなごやっ子が安心・安全で幸せな居場所である学校・園で仲間とともに楽しく学び、自らのもつ可能性を最大限に伸ばし、夢に向かって人生をきり拓いていけるよう取り組んでまいります。

アドバイザーからのメッセージ

哲学者・教育学者
熊本大学大学院 教育学研究科
准教授
苫野　一徳
Ittoku Tomano

これまでの150年間、日本の学校教育は、「みんなで同じことを、同じペースで、同質性の高い学年学級制の中で、できあいの問いと答えを勉強する」システムとして続いてきました。落ちこぼれや不登校を始めとする、様々な問題の最大の理由はこのシステムにあります。

しかしいま、そこからの大きな転換が、全国的に起こり始めています。名古屋市は、自治体規模でその転換に取り組むフロントランナーです。転換の一つの軸は、私なりに言えば「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」です。子どもたちが、自分のペースで、自分に合った学び方で、「ゆるやかな協同性」に支えられながら学び合う。カリキュラムの中核は、自分たちなりの深い問いを探究する、様々なワクワクできる“プロジェクト”です。

名古屋からどんな実践が登場し、また全国に波及していくか。とても楽しみにしています。そして微力ながら、全力で応援したいと考えています。

学びの改革に取り組む 7つのプロジェクト 学校園MAP

モデル実践校 2019年度～

1 矢田小学校

高等学校 4校合同 プロジェクト

マッチングプロジェクト 2021年度～

7a 緑高等学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

7b 北高等学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

7c 富田高等学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

7d 山田高等学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

2a 第一幼稚園

マッチングプロジェクト 2021年度～

2b 第三幼稚園

マッチングプロジェクト 2021年度～

2c 吹上幼稚園

幼稚園 5園合同 プロジェクト

マッチングプロジェクト 2021年度～

5 前津中学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

6 八幡中学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

2d 荒子幼稚園

マッチングプロジェクト 2021年度～

2e 鳴子幼稚園

マッチングプロジェクト 2021年度～

3 山吹小学校

小学校 2校合同 プロジェクト

マッチングプロジェクト 2021年度～

4a 稲永小学校

マッチングプロジェクト 2021年度～

4b 野跡小学校

学校園の詳しい取組はコチラから▼

モデル実践校とは

個別最適な学びを推進するため、2019年7月から、小学校1校において民間教育研究機関と連携した実践研究を進めています。他校に先駆けてICT環境を整備し、いち早く一人1台のタブレット活用を進めるとともに、探究的な学びを重視した教育実践に取り組んでいます。

マッチングプロジェクトとは

2021年4月から、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各校種において、学校園がめざす子ども像の実現に向けた課題・ニーズと、民間事業者のもつ知識・技術・ノウハウ等の力をマッチングさせて、官民連携で学びの転換を進める「マッチングプロジェクト」がスタートしました。

学びわくわく 笑顔キラキラ
マッチングプロジェクト
みんなの力で学校を変える

学校園のチカラ × 民間のチカラ → マッチングプロジェクト → 課題の解消 & ニーズの実現

- ICT 企業
- EdTech ベンチャー
- オルタナティブ教育
- キャリアコンサルタント
- 空間デザイン企業
- 教育研究機関

子どもの多様性へ対応　教育DX　学習者中心の学び　働き方改革　教員の意識改革

名古屋市立矢田小学校

Nagoya City YADA Elementary School

実践テーマ

自分で考え、人と学び合い、わくわくしながら進めよう！

－PBL とタブレット PC 活用を核とした、学びの個別化・協同化・プロジェクト化－

※ PBL（Project Based Learning）は、子ども自身が課題を設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する探究的な学びです。

1 自分の問いを探究する

児童がわくわくする問いを自ら立て、自分なりの見通しをもって自分の力でやりとげる探究的な学び（PBL：Project Based Learning）に取り組んでいます。児童は、自分の問いからプロジェクトのゴールを設定し、わくわくする気持ちを原動力に、試行錯誤しながらゴールに向けて学習を進めます。

実体験や本物との出会い

児童がわくわくする自分事の問いを立てられるように、実体験や本物との出会いを大切にしています。そのために、特に「ふれる」活動では、積極的に外部の方々と連携しています。

有松・鳴海絞りの体験

車椅子の体験

プロジェクト型学習（PBL）の流れ

ふれる → 問いとゴール設定 → 企画書作成 → 探究活動 → 振り返り → 発表

- ふれる：テーマに関わる内容にふれ、関心を高める。
- 問いとゴール設定：ウェビングでアイデアを出し合い自分の問いを立てる。
- 企画書作成：自分が立てた問いを解決するための企画書を作成する。
- 探究活動：企画書に基づいて、それぞれが考えた方法で探究する。
- 振り返り：プロジェクトのゴールとして実践する。
- 発表：学んだことや課題を考える。成果と振り返ったことを、他者に伝える。

社会とのつながり（公的施設・企業・地域や学校の大人・他学年児童等）

わくわくフェスタ
わくわく授業参観

オンライン開催（昨年度）

プロジェクト連携事業者

日本PBL研究所
Institute of Project-Based Learning in Japan

2 ICT を文房具として

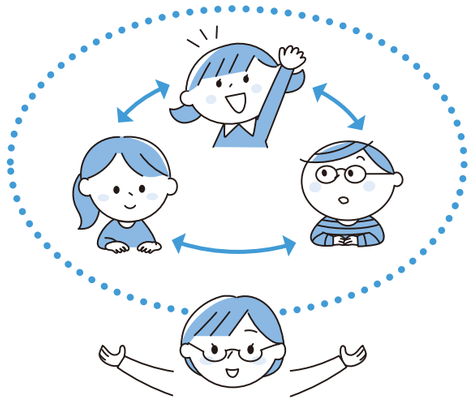
一人1台タブレットを文房具の一つ（道具）と位置づけ、ICTを効果的に活用した学習を進めています。児童自身が、ICTのメリット・デメリットを体験的に学びながら、場面や用途に合わせて選択できることをめざしています。

複線型の授業

児童が自己選択して、自分に合った方法やペースで学ぶ複線型の授業も行っています（例えば、教員からミニ講義を受ける、自分で教科書を使って学ぶ、自分でタブレットを使って学ぶ）。

3 子どもが主役

学びの主役は子どもです。教員が手取り足取り児童に教え、失敗しないように導くのではなく、児童の自己選択・自己決定を尊重し、時には失敗も経験しながら自分の力で学びとっていく過程を重視しています。



ファシリテーター

ファシリテーションとは、ものごとを活性化したり整理したりと、活動のプロセスをサポートすることです。子ども主体の学びでは、教員はファシリテーターとしてかかわります。

校長メッセージ

松山 清美
Kiyomi Matsuyama

本校では、「自分で考え、人と学び合い、わくわくしながら進めよう！」という目標を掲げ、これをめざした学びを「わくわく学習」と呼んでいます。「わくわく学習」では、「探究的な学び」と「タブレット端末の効果的な活用」を重点とし、子どもがわくわくする気持ちを原動力として、主体的に取り組むことを大切にしています。

授業を進めるに当たっては、民間事業者（NPO法人日本PBL研究所）のサポートを受けながら、従来の教師が教える授業から、子ども主体の学びへの転換を図っています。子ども主体の学びでは、子どもが自分なりの見通しをもち、方法やペースを自己選択・自己決定しながら学習を進めます。教師の役割は、伴走者として、子どもをサポートすることです。また、学校が社会とシームレスな学びの場となるよう、企業や専門家とのかかわりを積極的にもつようにしています。

このようにして、未来をたくましく生き抜く力を育てたいと考えています。

名古屋市立幼稚園

5 園合同のプロジェクト

●名古屋市立第一幼稚園　●名古屋市立荒子幼稚園
●名古屋市立第三幼稚園　●名古屋市立鳴子幼稚園
●名古屋市立吹上幼稚園

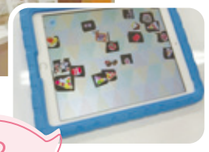
実践テーマ

■園児が自由な発想で様々な遊びを創出することや自分の学びを振り返ることにつながる環境づくり

■園児一人ひとりの思いや体験を記録し、子ども・保護者・教員が情報共有して子どもを育むコミュニケーションづくり

1 ICTで深まる・広がる遊び！

園児が自由な発想で遊びを創出できるように、ICTを遊具や道具の一つと位置づけて保育環境を整えました。園児がタブレットを遊びに取り入れることで、遊びの深まりや広がりにつながったり、新たな遊びが生まれたりしています。



プロジェクト連携事業者

Benesse　CODMON　Smart Education　NTT

2 園児の育ちを分かち合う

園児の活動を写真や動画等で記録し、教員同士で共有したり、保護者の方のスマートフォン等に配信したりしています。園児の育ちを分かち合い、共に支えるためのよりよいコミュニケーションづくりを進めています。

保育ドキュメンテーション

園児の活動を、写真や動画、文字などで継続的に記録しています。園児が自分の成長に気づいたり、活動を深めたりすることにつながっています。また教員も、その時々では見逃しがちな園児の視線、表情などを記録で確認でき、一人ひとりの深い見取りにつながっています。

3 園業務のデジタル化

園業務の省力化を進めるために、登降園管理や欠席連絡などにICTを活用しています。教員が一人ひとりの園児に向き合ったり、保護者の方とのコミュニケーションを図ったりするための時間確保につながっています。

保護者の方の声

朝は一日の中で一番忙しい時間です。欠席や遅刻の連絡がアプリで簡単に行えるようになり、とても助かっています。

園長メッセージ

名古屋市立鳴子幼稚園
鈴村 優子
Yuko Suzumura

名古屋市立幼稚園では、幼児と共によりよい環境をつくり出し、幼児がその環境のもとで教師や友だちと楽しく充実した生活を営みながら、生きる力の基礎を育むことができるよう、遊びを通した総合的な教育を実践してきました。

本プロジェクトでは、幼児が遊びの中で、自分なりに考える、試す、予想する、確かめる、工夫するなどして、様々な学びを重ねられるよう、直接体験のさらなる充実を図ります。特に、幼児一人ひとりが ICT機器を道具の一つとして活用しながら主体的に遊びを進められる環境づくりに取り組み、したいことにじっくりと関わり夢中になって遊び込める幼児を育てたいと考えます。

幼児教育実践のパイオニアとして、5 園一丸となって豊かな学びを育むよう取り組んでまいります。

名古屋市立山吹小学校

Nagoya City YAMABUKI Elementary School

実践テーマ

子ども一人ひとりの個別の発達に焦点をあて、違いから豊かに学び合う環境の中で、子どもたちが自らのペースで、自らの興味・関心や能力、進度に応じて、自立して学ぶことを最大限に尊重する学びづくり

1 自分のペースで学ぶ

児童が自ら学習計画を立て、自分にあったペースや方法で学ぶ時間（週に5～10時間程度）を設けて、児童が主体的に学習を進めています（山吹セレクトタイム）。

サークル対話

円になり、児童がお互いに顔を見合わせながら考えを交流します。一人ひとりが尊重される大切さなどを学び、児童が安心して学べる環境が育まれていきます。

学ぶ場所も自分で選ぶ

自分の時間割

児童は、各教科の単元進度表などに基づき、自分で1週間の時間割を考えます。単元進度表には、教材、ゴール、探究などの幅広い選択肢が掲載されています。

黄色の欄は、自分で1週間の学びを計画！

教員の役割

教員は、児童が自ら学習を進められるように環境を整えます。また、児童の様子を丁寧に見取り、学習の進度やつまずきを把握して、一人ひとりに適切な支援を行います。

プロジェクト連携事業者

Japan Jenaplan Association　FORVAL　ギガサポ合同会社　個別最適な学びをサポート プランプラン　UIS

2 異年齢で学ぶ

3学年混合の異学年グループ（低学年1～3年生、高学年4～6年生）で、役割分担したり、お互いの考えや意見を交流・共有したりしながら、問題解決型の学習に取り組んでいます（ふれあい活動）。

いろいろな立場を体験

3学年混合の活動では、児童は教えられたり、助けたりする役割などを繰り返し体験します。その中から、児童は他者の理解やコミュニケーションの方法を学んでいきます。

遊びから学ぶ

活動の中には、ゲームやアクティビティの時間も設けています。遊びから、お互いの個性を理解したり、協働する力を育んだりしています。

3 子どもの学びを支える

児童の多様な学びを支えるため、図書室を活用の自由度が高い空間に改修したり、ICT支援員を日常的に配置したりするなど、ハードとソフトの両面から教育環境を充実させています。

新しい図書室

校長メッセージ

山内 敏之
Toshiyuki Yamauchi

『夢中になって目を輝かせる子どもたち』

すべての子どもにそんな教育を届けることが、学校の使命だと考えています。本校では、そのために、民間事業者のもつノウハウを活用しながら、子どもたちの「主体的に課題解決に取り組んでいる姿」や「クラスや同じ学年の仲間だけでなく、異なる学年のメンバーの中で、互いに認め合いながら、自分のよさや個性を生かし、協働している姿」をめざし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する学校づくりを進めています。具体的には、次の3点に重点を置いて取り組んでいます。

○子ども一人ひとりの興味・関心や能力、進度に合わせて、子どもが自ら計画を立てて、学習を進めること。
○ふれあいグループ（異学年グループ）での活動において、子どもを探究の主体とし、互いの考えや意見を交流・共有しながら、よりよい解決策を探る学習を進めること。
○子ども一人1台タブレットや、体育館、廊下に設置したモニターなど、豊かな学びのためのICT環境を一人ひとりの学習に効果的に活用すること。

これからの、小中学校のロールモデルとなることをめざして取り組んでまいります。

名古屋市立稲永小学校　名古屋市立野跡小学校

Nagoya City INAEI Elementary School　Nagoya City NOSEKI Elementary School

中学校を同じくする小学校２校の合同プロジェクト

実践テーマ

子どもたち一人ひとりが、人と豊かにつながり、できる喜び・楽しさを実感することができる学びづくり

1 みんながわかる、楽しい授業

算数科の授業を軸として、全員で進める一斉の学習と、デジタルドリルを活用して個人で進める個別最適な学習とを一時間の中でバランス良く組み合わせ、児童の「できる!」気持ちを引き出す授業づくりに取り組んでいます。

児童の進捗を確認

一人ひとりへ適切なアドバイスをする

個別最適な学びと AI型デジタルドリル

AI型デジタルドリルは、児童の解答を分析し、理解度（誤答の原因）を判断して次の問題を出題します。児童は自分の習熟度やつまずきに応じて最適な問題に取り組めます。

地域と連携して

両校の中学校区内に位置するテーマパークLEGOLAND®Japanにご協力いただき、児童がわくわくする「楽しい!」教育活動も実施しています。

プロジェクト連携事業者

TOPPAN　MAZDA Incredible Lab

稲永小学校から

2 教室がつながる

2校間の教室がオンラインでつながる遠隔合同授業を行っています。児童がお互いに考えを伝え合ったり、認め合ったりする機会が増えるとともに、学習内容の深まりや広がりにもつながり、規模の小さい学校では得難い経験がICTで実現しています。

野跡小学校から

子ども同士がつながる

2校間では児童のつながりも深まっています。中学校を同じくする児童同士の交流は、今後中学校へ進学し、新しい環境での学習や生活へ移行する上でとても意義があると考えています。

教員同士もつながる

遠隔合同授業では、教員同士もお互いの専門性を生かした授業を見合うことにつながり、切磋琢磨する機会が生まれています。

3 言語のバリアフリー

母国語が日本語でない児童も数多く在籍しています。タブレット端末の翻訳ツール等を効果的に活用するなどして、児童が主体的に学習を進められるように工夫しています。

校長メッセージ

名古屋市立稲永小学校
佐藤 雄一
Yuichi Sato

本校では、これまでにも、児童が学校に楽しく通えるように様々な手立てを講じてきました。マッチングプロジェクトでは、同じ中学校ブロックである野跡小学校と連携して「楽しい!行きたい!学校 IN（稲永）× NO（野跡）VATION」をめざし、民間企業のノウハウを活用しながら、お互いの学校の良さを伝え合えるような活動など、これまでにはない児童の新たな「ワクワク」を創出していきたいと考えています。また、ICT 環境を充実させ、一人ひとりに応じた学びや、学習の奥深さに気付く探究的な学びを提供し、学校が楽しいと思える児童の育成をめざしていきます。

名古屋市立野跡小学校
佐野 知章
Tomoaki Sano

子どもが「学校に行きたい」「学校が楽しい」と思える学校をめざしています。子どもたちが、行きたい、楽しいと思うには二つの側面が大切であると考えています。

一つは、「勉強が分かる・授業が楽しい」ことです。学校生活の大半の時間となる授業が分からないでいては、子どもの学校に向かうエネルギーはなかなか生じません。そこで、算数科を軸としてICTを活用し、全体授業と個別最適な学びの両立（ハイブリッド化）を行い、子どもの「できる!」を引き出します。

もう一つは、「友だちに自分のよさが認められる」ことです。一人ひとりがもつ、その子のよさが他に認められることは、自分の存在意義や居場所を自覚することにつながると考えています。そこで、ICTや、稲永小学校との遠隔授業を活用して、自分の考えを伝えたり、友だちを認めたりする協働的な学びを行っていきます。

名古屋市立前津中学校

Nagoya City MAEZU Junior High School

実践テーマ

■わくわくする好奇心をベースに、生徒一人ひとりが自分らしさを理解し、自分らしく生きていくための未来につながる体験ができる学びづくり

■互いの存在や違いを認め合い、それぞれが自分らしさを安心して表現できる居場所づくり

1 地域社会を探究する

地域社会をフィールドとして、3学年合同のチームで探究学習を進めています。生徒は、地域の企業・団体が社会に生み出す価値を体験的に学びながら、その新たな可能性を考え、地域をよりよくするためのアイディアを協働して創り上げていきます。

活動のルール

「発見を楽しもう」「どんな考えでも言葉にしてみよう」「たくさん試してみよう」が生徒たちのルール。3学年合同の活動にあたって、生徒が安心して学びに向かうための仕掛けであり、自らの思いを表現することにつながっています。

フィールドワーク

企業訪問

地域とつくる学び

国際比較※によれば、日本の若者は「自分で国や社会を変えられる」と思っている割合が低いとされています。学校教育を通じて、持続可能な社会の創り手を育むためには、地域と学校とが連携し、子どもの学びをつくることが大切です。

※参考：日本財団「18歳意識調査」第20回テーマ「国や社会に対する意識」

学びのサポーター

今年度の探究学習は、下の地域企業・団体の方々に支えられています。

okamura

大須商店街

MEIJO UNIVERSITY

第一生命

にっぽんど真ん中祭り

2 自分の生き方を考える

国家資格をもつキャリアコンサルタントが常駐し、生徒が自分自身の生き方を考えたり、学校での学びと未来のありたい姿とを結びつけたりするためのサポートを行っています。

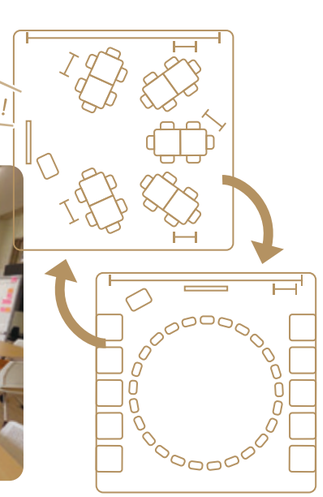
ライフキャリアとは？

仕事だけでなく、家庭生活、地域活動、趣味など、生涯にわたる様々な役割や経験の積み重ねのことをいいます。進学や社会に出る前の早い段階から、自分らしい豊かなライフキャリアをデザインする力を育んでいくことが重要だと考えています。

3 柔軟性のある空間づくり

生徒の主体的な活動を支援するため、多様な学習内容・学習形態を可能とし、生徒のもつ豊かな創造性を発揮できる、柔軟性のある空間づくりを行いました。休み時間や放課後の居場所にもなり、快適な学校生活や生徒の交流促進にもつながっています。

様々な活動や学びのスタイルに対応！！



プロジェクト連携事業者

教育と探求社 EDUCA&QUEST

ICDS INTELLIGENCE CAREER DESIGN SUPPORTERS

okamura

校長メッセージ

藤本 一人
Kazuhito Fujimoto

本校では、「笑顔あふれるTEAM前津　～自ら考え　自ら学び　自ら行動～」を今年度の重点的なテーマとして学校運営を進めています。特に昨年度からは、生徒の「学び」を「教科学習に限らず、学校・家庭・すべての場面での知識、体験・経験」と捉え、子ども主体の学びの推進に重点を置いて取組を進めるとともに、みんなが楽しく安心して学び・生活できる学校づくりを進めています。

マッチングプロジェクトでは、企業・民間等のもつノウハウ・スキル・人材などと、様々な面から連携した取組を進めています。特に総合的な学習の時間において、1年生から3年生合同でチームを組み、地域をよりよくするために、地域企業を「リソース」として見渡し、大人も気付いていない可能性を探り、企業等に対して自分たちの思いや発想を発信・提案していく学びを進めます。

企業や社会についてより深く学ぶとともに、自分との関わりを見つめ直し、自分の生き方について考える機会となることを期待しています。

名古屋市立八幡中学校

Nagoya City YAWATA Junior High School

実践テーマ

■生徒の学び方と教員の働き方を楽しくする、ICTを最大限に生かした学校づくり

■多様な仲間と協同し、自分たちの手で学校を楽しくする、生徒が参画する学校づくり

1 生徒の学び方改革

ICTを効果的に活用して、生徒が自分に合った進度で学習を進めたり、学習状況を振り返ったりしています。生徒の「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」といった観点を重視した授業づくりを進めています。

新しいテストの取組

これからの時代を担う生徒は、知識・技能を身につけるだけでなく、現実的な状況の中でそれらを使いこなす能力を身につけることが必要です。そのため、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす評価手法であるパフォーマンス評価型のテストに取り組んでいます。

生徒が解答をタブレットに録音する様子

マインドセット

生徒が「自分の才能や能力は生まれつき固定的ではなく、経験や努力によって向上できる」という成長型のマインドセット（ものごとを判断したり行動したりする際に基準となる考え方）をもてるように、自分の可能性を感じられるキャリア教育も進めています。

プロジェクト連携事業者

FUTUREINN　DNP　スズキ教育ソフト　Life is Tech!　一般社団法人 ひらけエデュケーション

校内研修

テスト採点業務の効率化

学習状況の可視化

2 教員の働き方改革

ICTを効果的に活用して、テスト採点業務の効率化や、生徒の学習状況の可視化などを行っています。教員が生徒一人ひとりに向き合うための時間を生み出し、生徒への適切な支援につなげています。

3 生徒参画の学校改革

学校行事の企画運営や制服・校則の見直しなど、生徒が学校づくりに参画できる機会を増やしています。教員も生徒も同じ学校の創り手と位置づけて学校改革を進めています。

学校そのものを学びに生かす

学校は、生徒が社会に出るための準備をする場所であり、社会的自立を育んでいく重要なフィールドです。そのため、生徒が自分たちで考え、合意形成し、実行するといった活動を実践できるように、学校そのものを生徒の学びのリソースに位置づけています。

制服の見直し

生徒会活動を発信するWebページ制作

校長メッセージ

高橋 幸夫

Yukio Takahashi

これまで、多くの知識を身につけた生徒が優秀と言われる時代がありました。しかし、これからの時代を背負って立つ生徒には、身につけた知識や調べる技能を使って、『思考し、判断し、表現する』力を伸ばし、社会で活躍できる能力を自ら養ってくれたらと願っています。そのため、本プロジェクトでは、生徒が「思考する集団」となるための取組を実践し、『自主・自立・自律・自治』の力を育み、誰もが「楽しい」と感じる学校をめざします。

主な実践内容は上記のとおりですが、「生徒の学び」「教員の働き」を転換するため、個別最適な学びにおける指導と評価のあり方や、学校・保護者間のICT活用の可能性についても検討・実践を進めていきます。

1学期からすでに、一人1台タブレットを活用した「思考し、判断し、表現する」教育活動、知識偏重主義から脱却したテスト、生徒が参画する制服決めや校則づくりが動き始めています。これからの公立中学校のロールモデルを創造することをめざして取り組んでまいりますので、皆さまご注目ください。

名古屋市立高等学校

4校合同のプロジェクト

- 名古屋市立緑高等学校
- 名古屋市立北高等学校
- 名古屋市立富田高等学校
- 名古屋市立山田高等学校

実践テーマ

生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成
－学習の質を高める、ICTを活用した授業実践を通じて－

1 BYODを見据えた一人1台タブレットの活用

学校の授業で生徒が個人所有の端末を活用する、いわゆるBYOD（Bring Your Own Device）を見据えて、生徒用タブレットを導入しました（4校で計462台）。協働学習ツール、デジタルドリル等の学習アプリを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んでいます。

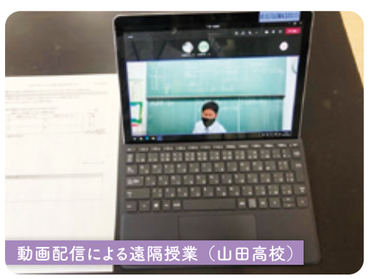
自分のアイデアを形にするプログラミング学習（北高校）

タブレットを活用した学び合い（緑高校）

教材提示の工夫（緑高校）

生徒会活動におけるタブレット活用（山田高校）

タブレットを活用した発表活動（富田高校）


動画配信による遠隔授業（山田高校）

AI型教材を用いたグループワーク（北高校）

高等学校におけるICT活用は？

各校では、本格実施に先立ち、学習に活用できる様々なアプリケーションを試行利用して、めざす教育活動に向けた効果的なICT活用の検討を進めています。

CaLabo® MX　Qubena　ロイロノートSCHOOL　Microsoft Teams　zoom

2 垣根を越えた学び合い

高等学校では、それぞれの学校が生徒に合わせて独自の教育課程を編成しています。学びのあり方が変革期を迎える中で、効果的に授業改善を進めていくため、ICTを活用して学校間で教育活動や創意工夫の共有を図るなど、垣根を越えた学び合いを加速させています。

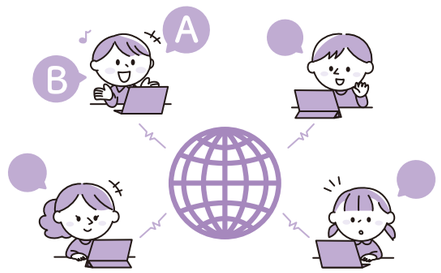
授業検討会に複数校の教員が参加

授業レシピ

本プロジェクトにおける実践事例や他都市の先進事例などを「授業レシピ」と名付けて蓄積・共有しています。各校が、他校のレシピや教材等を参考にしながら授業づくりを進めています。

3 学校の特色を伸ばす

各校がそれぞれの特色をさらに伸ばすため、本プロジェクトの中で、グローバル教育やキャリア教育の充実に取り組んでいます。



プロジェクト連携事業者

FUTUREINN　Life is Tech!

校長メッセージ

名古屋市立緑高等学校
秋田 直孝
Naotaka Akita

本校では、「自主・自律の精神を重んじ、心身ともにたくましく主体的に学びに取り組み、自らの夢を実現していく生徒の育成」をめざし、グループディスカッションやグループワークを活用した、主体的・対話的で深い学びを重視した授業改革に取り組んでいます。

マッチングプロジェクトでは、民間事業者が持つノウハウを活用しながらICTを最大限に活用した授業づくりや能動的な学びを具現化した授業レシピの作成に取り組んでいきたいと考えております。特に、英語4技能学習支援ソフト（CaLabo® MX）を活用した実践とその効果を大いに期待しています。

名古屋市教育委員会事務局　指導部指導室

開庁時間　月曜日から金曜日
午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分まで
（休日・祝日・年末年始を除く）

〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号
TEL：052-972-3236
URL：https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/

2022 年 1 月